



文部科学大臣認定  
日本版総合的社会調査共同研究拠点  
大阪商業大学 JGSS 研究センター

## 統計分析セミナー 2013

JGSS 研究センターでは、統計分析のスキルアップを目指される大学院生、または研究者の皆さまを対象として、山口一男先生（シカゴ大学社会学部・教授）のご協力を得て、集中セミナーを開催いたします。  
多数のご参加をお待ちしております。

### ■ 日時

2013年9月2日(月) - 3日(火)  
10:00 ~ 17:00(両日)

### ■ 会場

大阪商業大学 GATEWAY

### ■ 募集人数

50名(先着順)

### ■ 参加費(当日払い)

研究者 10,000円  
大学院生 5,000円

### ■ 受講申し込み方法

申込用紙をメール、FAXまたは郵送にてJGSS研究センターまでお送りください。用紙はホームページからダウンロードできます。

### ■ 宿泊

U-コミュニティホテル(会場まで徒歩5分)がご利用いただけます。  
URL: <http://www.u-community.co.jp/>

### ■ お問い合わせ

大阪商業大学 JGSS 研究センター  
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10  
TEL: 06-6785-6013  
FAX: 06-6785-6011  
E-Mail: [jgss@daishodai.ac.jp](mailto:jgss@daishodai.ac.jp)  
URL: <http://jgss.daishodai.ac.jp/>

## 傾向スコアを用いる因果分析

**講師: 山口一男** シカゴ大学社会学部・教授

研究分野: 量的データの分析方法論、ライフコースと職業キャリア、社会的ネットワーク、社会的交換、社会階層と社会移動、家族と就業の人口学、薬物乱用のプロセス、現代日本社会

1. ルービンの因果モデル(RCM)の考え方と、横断的データへの応用の場合の仮定
2. 線形従属変数の場合のIPW (inverse-probability weighing) 法
3. DFL (DiNardo, Fortin, and Lemieux) 法による要素分解分析 (decomposition analysis) への傾向スコアの応用と因果効果の直接効果と間接効果への分解
4. 2値の従属変数の場合のIPW法の応用と注意
5. 処理変数が内生変数の場合1—ヘックマン法とIPWを併用する方法
6. 処理変数が内生変数の場合2—LATE法とその問題点
7. パネルデータ分析1: DID分析とIPWを結びつけたアバディの方法
8. パネルデータ分析2: ロビンズ周辺構造モデル

ロジスティック回帰分析の知識を前提としています。  
応用はSPSSを用います。すべて実際のデータを用い、モデルの応用のためのSPSSシンタックスも解説します。参加者はSPSS (Regression モジュールを含む) がインストールされたノートパソコンをご持参下さい。講義のハンドアウトは当日配布します。